

# 日本における国際情報教育の展開

— とりわけ情報教育における韓国語教育の導入案について —

李鍾浩\*・西谷成昭\*\*

## < 目 次 >

第1章 序章
第1節 研究の必要性
第2節 研究の目的
第2章 情報教育の国際的Sensitivity
第3章 日本における韓国語学習の必要性
第1節 研究意義と仮説の設定
第2節 質問紙の構成と調査結果
第4章 結論
第1節 研究結果および示唆点
第2節 要約と限界点および提言
付録 アンケート調査用紙（韓国語履修学生用）

## 概 要

このところ、教育の荒廃が社会の荒廃に直結するなどのことが叫ばれ、教育もその原点を探る必要性がある。そこで「学習」の概念を明確化させる必要もある。そこで高校での情報教育もBusinessとの関わりの中で大きく変化している。

本研究の目的は、Business教育を念頭に置きながら以下の二点を掲げる。

- 1 情報教育の展開に当たっての基本的条件を追求する
- 2 国際化社会の影響から見て日本における韓国語学習の必要性を追求する。

情報教育の国際的Sensitivityについてであるが、「情報のCommunication能力」が提唱されて久しくなった。そこで時代の進展に応じて「国際情報」が求められるようになり、新たな能力が求められる。それが国際的Sensitivity能力である。それには以

\* 韓国国立公州大学校 商業情報教育科 教授

\*\* 岩手県立宮古北高等学校 教諭

접수일자 : 2003-3-10    게재확정일자 : 2003-10-25

下の6つの要素があげられる。

- 1 Humor
- 2 Body Language (B L)
- 3 対人距離
- 4 国際的Sensitivity
- 5 国際的Sensitivity向上法
- 6 Magic Words

こうした国際的Sensitivity能力の必要性から、日本における韓国語学習の必要性を調べてゆく。その資料としては岩手県立花巻南高等学校の韓国語履修生徒への質問調査の実施からその解を得ようとするものである。調査項目は以下のとおりである。

- 1 韓国語の履修理由とその満足度
- 2 韓国語の理解度と難易度
- 3 韓国語授業のたのしさと英語の興味度の相関関係
- 4 Computerによる韓国語文書実習とe-mail

その調査結果は、つぎのとおりである。

- 1 興味があり、Asia圏の言語だから履修する。概ね満足している。
- 2 理解度は、あまり理解できていない状況にあり、若干難しいとしている。
- 3 反面、授業は楽しいとしており、英語の好きな生徒が履修している。
- 4 Computerによる韓国語文書実習に興味があり、e-mailの経験がないことから、教師による準備が整えば効果も期待できる。

また、上記以外の自由記述としては以下のものがあつた。

- 1 地理的に近いことから多くの学習の機会が必要
- 2 最近の韓日交流の現状から見て学習の機会が必要
- 3 会話力の低下からも学習の機会を増やす必要がある。

こうしたことから、商業高等学校における国際関係学科の生徒に対して、将来的に国際化が推進されることから韓国語の学習の機会を提供する時代を迎えたと言える。結論として以下の学習が考えられる。

- 1 国際情報応用科目
  - (1) 国際情報Ⅰ 英語・韓国語Editor利用の文書処理
  - (2) 国際情報Ⅱ 英語・韓国語Editor利用の表計算
  - (3) 国際情報Ⅲ 英語・韓国語Editor利用の情報検索
- 2 基礎科目
  - (1) 外国語 英語・韓国語の基礎的語学力の養成
  - (2) 外国語Communication 英語・韓国語の会話型語学力の養成

---

主題語：国際情報教育, 経営教育, 情報教育, 情報Communication, 国際的Sensitivity

## 第1章 序 章

### 第1節 研究の必要性

人間のひとり一人がみな違っている。顔かたちが違うように、心の働き方も違っており、また発達の仕方にも違っている。宇宙の中で人間ほど複雑で底知れぬものはない。人間というものの底知れなさと、測り難さに対する畏れの感情を失ったとき、その瞬間から教育は退廃と墜落への道を歩み始める。<sup>\*</sup>

教育の墜落と荒廃ほど恐ろしいものはなく、社会が荒廃する原因にも直結する。そうならないためにも教育それ自体を取り上げ、原点を探る必要もある。

つまり教育が常に深化発展を続けるためにも、社会への貢献と学生に適應した学校を構築する必要がある。この「学生に適應した学校」について、Summer Hill学園がある。この学園は一つの実験学校として始められたものである。しかし今日においてはもはや実験学校ではない。Demonstration学校である。つまりこの学校における教育理念が違うのであった。それは、学生を学校に適應させるのではなく、学生に適應する学校をつくるという理念であった。そこには学校における学生としての在り方や学生としての取り組みべき「学習」の概念などを提唱するというものではない。ここに心理

学的要素を取り入れることにより学生を主体的に育成しようとする方向性が導き出されると確信している。<sup>\*\*</sup>

教育の主体は教師ではなく、学生にある。その学生の人材育成のために「学校」という枠組に合致させ、「学習」のあるべき姿を求めめるのではなく、対象となる学生自身に目を向けながら、学生の望む「学習」を希求する。こうした教育理念の下で学校社会が形成されるならば、真の教育の姿が求められよう。

### 第2節 研究の目的

このところ情報教育も普通科教育の中に位置づけられてきた。そこで、商業系高等学校における情報教育の持つ意味合いも一層Businessとの関わりの中で特化した情報教育が求められている。

本研究の目的は、そうしたBusiness教育を念頭に入れながら、必要とされる情報教育を模索検討することにある。大前提としては、学生自身が興味を持つ情報教育をめざすことにあり、教育の一面である「学習」をより一層学生自身に傾倒した学習活動の実践として位置づけさせるために、また自主的・自発的態度を育成させようとする意図がある。そうした中であって、Businessを前提とした情報教育の実践が商業系高等学校では効果

3) 遠山 啓, "競争の原理を超えて", 1980, p.12

4) A.S. Neill, 霜田 静志, "恐るべき学校", 1967, p.13-14

のある教育体系になると考えている。そこで本研究の目的を達成するために、以下にその研究問題を設定してみたのである。

第一に、情報教育を実際に展開するに当たって、どのような基本的条件が求められるかを追求するものである。

第二に、国際化および情報化社会の影響から鑑みて、日本における韓国語学習の必要性がどこにあるか。今後の語学教育がどのように商業教育に影響を与えるかなどについて検討を加えながら考察するものである。

## 第2章

### 情報教育の国際的Sensitivity

情報教育の基本理念としてのCommunication能力は提唱されてから久しくなった。以前から情報教育の国際化は提唱しているところではあるが、なかなかその奥の深さが散見され本腰を入れて国際化に取り組む姿が日本では乏しい様相が見受けられてならない。

まずはじめに「国際情報」である。これは何を示すものかと言えば、World Wide Areaでの「開かれた情報」を対象としながら、ある方向から見た場合の「異質や異文化」を対象とすることにある。そこには情報における「相互理解」「異質からNaturalへの追求」等々「様々な情報」を包含しながら教育を施す。\*

従来の一方的な情報教育ではなく、あらゆるものを含めた様々な情報を学んでゆく教育を「国際情報」として位置づけることにある。その「国際情報」へ導くための基本理念に国際的Sensitivity能力がある。これは国際的感性能力に求められる要素として、以下の要素が考えられる。

- ① Humor
- ② Body Language(BL)
- ③ 対人距離
- ④ 国際的Sensitivity
- ⑤ 国際的Sensitivity向上法
- ⑥ Magic Words

それでは、これら6項目に関する定義付けをする。

#### ① Humor

HumorのSenseとはJokeにある。またHumorousに話すことが条件である。こうしたHumorの大切さを認識する必要がある。

#### ② Body Language(BL)

一般的に日常の対人CommunicationにおけるSpoken LanguageとBody Languageの割合は2対8の割合である

\* 西谷成昭, "総合的情報教育の展開", 瑞進出版社, 1999.8 p.7-p.8

## 日本における国際情報教育の展開

という。つまりそれだけBody Languageの占める割合が多いという。Body LanguageはSpoken Languageと同様に、会話やCommunicationの一部であるという認識をすることが必要である。そこで求められる能力とは自然な形でBody Languageをいかに表現するかにあると言える。そこでSmoothに情報を表現するための4要素を以下に記すことにする。

番号	要素内容
①	ありのままの自己表現をすること。
②	積極的な姿勢で望むこと。
③	相手に興味を抱くこと。
④	自分を飾らないこと。

<表-1> Smoothな情報表現技法のための4要素

### ③ 対人距離

人間関係で最も大切なことは観察のできない空間における距離である。情報交換の際には、「実際の対人距離がその人間関係の遠近を示すMessageとなる。」ということを経験した上で情報行動を取る必要がある。

### ④ 国際的Sensitivity

ここで言う国際的Sensitivityとはどのようなことであろうか。それは異なる文化圏の情報に対して傾聴的行動の取れる

こと。そしてその情報圏からの学習意欲を持つこと。さらに基本的Mannerに対して気配りのできること。以上の3要素が求められるべきことである。つまり異文化情報を国際情報と認識しながら、それらを相対的評価のできる資質を備えることと言える。そのためには、国際的Sensitivityをより一層向上させる必要性が生まれてくる。それが次の向上法にある。

### ⑤ 国際的Sensitivity向上法

商用での情報交換を目的としたManner、つまりBusiness Mannerがその基本的な姿勢であると言える。その向上法として以下の6つの項目が考えられる。

番号	向上方法
①	相手への思いやりと迷惑をかけないこと。
②	対等な立場にいる認識を持つこと。社会の一員という責任感を持つこと。
③	常にこうへいでFairな考え方を持つこと。
④	約束を守ること。
⑤	
⑥	互いの国の歴史や文化の認識を持つこと。

<表-2> 6つの国際的Sensitivity向上法

⑥ Magic Words

Please と Thank youを言えることが国際的Sensitivityの備わった第一の能力であると言える。\*

第二の基本理念として「情報教育とはある種の支援教育である。」と言える。この支援教育には以下の4つの手法がある。

番号	支援内容
①	基礎的技能を習得するためのDrill演習
②	作文技能の開発訓練と課題解決
③	抽象的概念の理解のためのSimulation支援
④	Business Trainingを目的とした支援

<表-3> 情報教育の4つの支援教育

Computerによる情報教育の目的と結果をどのように設定し、どのように導き出すかは難題であることには違いはない。しかしながらComputerに関してだけの知識の習得や創造性のないTypist的な職業としての文書模写などは今後の情報

\* 御手洗昭治, "絶対英語の勉強法", 中経出版, p.49-p.66

教育として避けてゆくべき教育内容と言えよう。そうした中において、能力開発のための支援教育という基本理念を再認識する必要がある。

そこで第一にDrill演習に関連した情報支援とは「CAIによる教材学習」がある。このCAIを利用することによりこれまで全く興味を示さなかった学生がComputer利用という観点から気楽に「学習を試みよう」という意識が芽生える。また、学習者自ら試みた結果、容易であればさらに学習意欲が増幅する。このようにCAI利用に関して大いなる魔物が潜んでいると言える。

第二に、作文技能の開発と課題解決であるが、前述のTypist的な文書模写能力の育成ではなく、あくまでも創造的な作文技能の開発という観点から学生たちの技術を引き出す必要がある。Computer利用による作文技能は、学生たちの創造性を引き出し、また他の論説および作文を批評する能力も同時に引き出すことができる。そうした文章に図形を取り込むことにより、より一層Visualな表現技術も身に付くものと考えられる。反面、筆

## 日本における国際情報教育の展開

や鉛筆などによる手書き描画能力が損なわれる可能性も秘めているが、常に100%Computerだけを利用しているのではないので、そうしたBalanceも考えて教育効果を引き出すよう考慮する必要があることは言うまでもない。この作文技能の開発と課題解決能力との兼合いが重要な鍵を握っている。つまり、「問題を要素へと分解し、解決に向けた戦略を系統立てること。」がこの両者に求められる内容である。作文技能と課題解決能力はComputerを利用することでより一層学生の能力開発に支援するものとなるであろう。

第三に、抽象的概念の理解のためのSimulation支援がある。これは主に抽象的概念を視覚化させる場合に用いる技法であり、Simulationにより学生を支援したり、実際のSystemに直接接触することなくSystem Behaviorが体験できるものである。Simulation支援とは計数的概念の理解だけではなく、非計数的概念の理解深化のためにも有効な能力を発揮する。たとえば、ある指導者や市民の役割を演出することにより、角度を変えたところから考え、批評を展開し、各種政策の理解を深め、国際的および経済的、さらには経営的懸案事項への多くの視点を認識するように動機づけられることであろう。このようにSimulationもあらゆる領域に取り入れられてくるSystemとなるであろう。

第四に、Business Trainingを目的とした支援がある。Co

mputer利用についてBusinessを前提とした学習内容を設定することで、産業社会を意識した学習効果が期待されるという。こうしたことからBusiness Trainingのより一層の重要視に拍車がかかるものと考えられ、Computer利用もBusiness Training Programを組み入れるならば、効果ある支援が展開できよう。具体的なBusiness Trainingとは、先端技術に対する依存度の多い内容が考慮され、産業社会への直接的対応が可能な学生たちの養成につながるのである。

結論的にPenderの提言によると、技能練習や能力開発などの支援教育に情報教育が有効に発揮すると解される。つまり通常では理解できにくい学習内容を視覚と聴覚に訴えるというVisualな領域で理解深化へ導く必要性を痛感する。さらに一歩進めて考えると、そうした学習内容を対教師とのCommunicationを図ると共に、学生同士間でのCommunicationの活性化を狙いながら、縦横の共有化を推進してゆくのである。こうした基本理念を情報教育を実施する上での共通の教育的理念として捉える必要がある。

---

\* Shaw E. Pender, "アメリカ マルチメディア教育事情", 実教出版, p.40-p.41

### 第3章

## 日本における韓国語学習の必要性

### 第1節 研究意義と仮説の設定

21世紀の現代社会において外国語を学ぶ必要性は大いにあると見ている。その一つに日本、とりわけ岩手県において韓国語を履修している高等学校の学生を対象に質問紙における調査結果を掲げながら以下に分析を行うものである。そこで本研究では、岩手県花巻市にある高等学校の韓国語履修学生30名（男子5名女子25名：全学年）を対象に以下の調査を実施した。\*

上記の研究意義とその対象を根拠として、韓国語教育に関する学生の認識を研究するために、以下に研究仮説を設定するものである。

---

\* 本調査は岩手県立花巻南高等学校 校長 佐々木顕先生（現在 富士大学教授）のご協力ご快諾を得て、韓国語履修学生を対象に調査をさせていただいた。本調査実施に当たり、韓国語担当者である阿部宜姫先生には多大なるご協力とご支援を頂戴した。ここに深く感謝申し上げる次第である。

## 日本における国際情報教育の展開

- I 仮説1：韓国語に対する興味は旺盛である。
- II 仮説2：韓国語の授業は楽しいが韓国語学習には苦慮している。
- III 仮説3：第1外国語の英語と韓国語の相関関係は比例的関係にある。
- IV 仮説4：学生の語学学習にはComputer等の機器実習が必須である。

また、実際に韓国語の授業も拝見させて頂き、韓国語の楽しい学習の雰囲気も伝わり、かつ学生自身も伸び伸びと韓国語学習に取り組んでおり、こうした状況が商業教育の前段に準備されていれば、望まれる国際情報関係学科および国際経営関係学科等々の編成に有効な作用が働くと痛感した。ここに花巻南高等学校の

ますますのご発展をご祈念して御礼にさせて頂く。

### 第2節 質問紙の構成と調査結果

本研究の質問紙は以下のとおりの要素および内容となっている。

番号	質問内容	回答方式	回答数
1	韓国語の履修理由	番号選択方式	
2	履修の満足度	"	1
3	履修の理解度	"	1
4	履修の難易度	"	1
5	授業のたのしさ	"	2
6	英語の興味度	"	1
7	韓国の訪韓回数	"	1
8	韓国語系学科への大学進学	"	1
9	韓国語系業務への従事希望	"	3
10	Computer文書実習	"	1
11	e-mailについて	"	1
12	Communicationの育成	記述式	1

<表-4> 質問紙の構成

こうした質問紙の中での質問項目は韓国語教育に対する満足度、興味関心度そしてCommunication能力の育成について意見を求める内容であるところがその特徴である。また学生の回答する容易さを考慮に入れて記述式は1問だけとした。

#### (1) 調査の対象

本調査の対象校は、男子247名・女子463名の中規模高等学校である。学科の編成は普通科(男

李鍾浩・西谷 成昭

子232名・女子361名) および国際科(男子15名・女子102名)となっている。その中の韓国語履修学生は左記のとおりである。

	1年	2年	3年	合計
男子	1	4	0	5
女子	8	9	8	25
合計	9	13	8	30

<表-9> 韓国語履修学生数(国際科)

(2) 韓国語の履修理由

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
興味があるから		0	0.0%	14	41.2%	14	35.9%
アジア圏の言語だから		0	0.0%	8	23.5%	8	20.5%
周囲に韓国の方がいるから		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
RadioやTVの影響		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国に友人がいるから		2	40.0%	1	2.9%	3	7.7%
親や知人が勧めたから		1	20.0%	5	14.7%	6	15.4%
韓国旅行の影響		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語担当者の影響		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他		2	40.0%	6	17.7%	8	20.5%
合計		5	100.0%	34	100.0%	39	100.0%

<表-5> 韓国語の履修理由

I 仮説1: 韓国語に対する興味は旺盛である。

こうして見ると、日本の学生は隣国の韓国に対する興味関心度(35.9%)が強く、日本を取り巻くアジア圏(20.5%)についてその立場をよく理解していることが伺われる。この両者を併せると56.4%にも及んでいることがわかる。

また、その他の理由として、日本語も

韓国語も同じアルタイ語系であることを指摘している学生もあり、さらにハングル文字を独特の文字として捉えている学生も比較的多く見られた。この点からも興味関心の度合いの強い学生が集まったと言えよう。

日本における国際情報教育の展開

(3) 履修満足度

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
大変満足		0	0.0%	2	8.0%	2	6.7%
まあ満足		1	20.0%	6	24.0%	7	23.3%
ふつう		3	60.0%	16	64.0%	19	63.4%
やや不満		0	0.0%	1	4.0%	1	3.3%
大変不満		1	20.0%	0	0.0%	1	3.3%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-6> 韓国語の履修満足度

II 仮説2：韓国語の授業は楽しいが韓国語学習には苦慮している。

前問における韓国語の履修理由が比較的積極的であり、意欲旺盛な理由であることから、その満足度もおおむね良好であろうという仮説が成り立つのである。この履修に対する不満度についてはつぎの設問に掲げた韓国語の理解度および難易度との関係から明らかになると考えられる。そこで、韓国語の理解度とその難易度の両面から分析することにする。

まずはじめに、韓国語の理解度であるが、ふつうに理解できている学生とそうでない学生とはちょうど50.0%という数値で二極化している。さらに韓国語の難易度について見ると「やや難しい」とする学生の割合が7割近く占めている状況にある。しかしながら、授業の楽しさという点を見ると、かなり授業では楽

しく学んでいる様子が顕著に現れている。つまり、韓国語担当者の授業に対する熱意と指導力が大きく左右しているものと言えよう。ここに、指導者としての研修・評価・情熱が求められ、その結果が学生達から高く評価された現れと言えよう。

(4) 履修理解度と難易度

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
よく理解できている		0	0.0%	3	12.0%	3	10.0%
まあ理解できている		0	0.0%	3	12.0%	3	10.0%
ふつう		1	20.0%	8	32.0%	9	30.0%
あまり理解できていない		2	40.0%	10	40.0%	12	40.0%
全然理解できていない		2	40.0%	1	4.0%	3	10.0%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-7> 韓国語の理解度

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
大変易しい		0	0.0%	1	4.0%	1	3.3%
まあ易しい		0	0.0%	3	12.0%	3	10.0%
ふつう		0	0.0%	2	8.0%	2	6.7%
やや難しい		3	60.0%	17	68.0%	20	66.7%
かなり難しい		2	40.0%	2	8.0%	4	13.3%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-8> 韓国語の難易度

Ⅲ 仮説3：第1外国語の英語と韓国語の相関関係は比例的関係にある。

ではつぎに、英語と韓国語との相関関係について見ることにする。第1外国語および第2外国語という扱いこそ差異があるが、学生の側から受け止めると外国

語としては同じであり何ら変りはない。この両者の相関関係について以下で検討する。

日本における国際情報教育の展開

(5) 韓国語授業の関心度

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
大変楽しい		0	0.0%	4	16.0%	4	13.3%
まあ楽しい		1	20.0%	6	24.0%	7	23.4%
ふつう		3	60.0%	14	56.0%	17	56.7%
あまり楽しくない		0	0.0%	1	4.0%	1	3.3%
全然楽しくない		1	20.0%	0	0.0%	1	3.3%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-9> 韓国語の授業関心度

(6) 英語と韓国語の相関関係

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
大変好きである		0	0.0%	10	40.0%	10	33.3%
まあ好きである		2	40.0%	9	36.0%	11	36.7%
ふつう		2	40.0%	5	20.0%	7	23.4%
あまり好きではない		0	0.0%	1	4.0%	1	3.3%
嫌いである		1	20.0%	0	0.0%	1	3.3%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-10> 英語の授業関心度

第一に英語に対する関心度であるが、総じて英語の好きな学生が韓国語を履修している様相が見受けられる。韓国語に興味関心を示している学生が16%、韓国語と英語の両方に興味関心を示している学生が50%弱というDataから見ると、英語への取り組みの比較的良好な学生

は他国語への取り組みも同様に良い傾向を示していることが本研究調査からわかる。学生を中心に見ると、何に対しても興味関心を抱くことが必要であり、これを教師の側から見るならば、興味関心の引き出すような動機付けや指導が必要となってくる。なお科目選択制に関して一

番の問題点となる「希望外履修」であるが、一部の学生が履修を選択する際に定員充足済み等の理由から学生の配置換えが見られたが、各教師の的確な指導により大きな問題は生じていないようである

。この点に関して学生にとっては最大の問題点となり、そのことが今後の学生生活に大きな影響をもたらすことを教師は熟知していなければならず、特段の注意と配慮が求められるのである。

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
英語に興味がある		2	40.0%	5	20.0%	7	23.3%
韓国語に興味がある		0	0.0%	5	20.0%	5	16.7%
どちらにも興味がある		1	20.0%	13	52.0%	14	46.6%
どちらにも興味がない		1	20.0%	1	4.0%	2	6.7%
その他		1	20.0%	1	4.0%	2	6.7%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-11> 英語と韓国語の授業関心度比較

### (7) Computer利用による韓国語学習

#### IV 仮説4：学生の語学学習にはComputer等の機器実習が必須である。

本研究調査の最後の課題とされる「語学学習に情報機器であるComputerの導入が不可欠であり、ここに韓国語情報の必要性を説く。」との仮説により新科目「韓国語情報」の設定を求めるものである。その根拠として本調査Dataを以下で見ることにした。

まずはじめに、韓国製のComputerにより韓国語の文書処理実習の必要性を聞いたところ、「ぜひ実習したい」「機会があれば実習したい」を含めると5割近くまで占めるのである。また日本製Com

puterによる韓国語の文書処理実習の希望者も「実習したい」という割合は、ちょうど5割を占める結果となった。つまり韓国語を机上で学習したその後に、たとえば新科目「韓国語情報」などとComputer実習科目を設定した場合には、かなりの効果が期待できるものと推測できる。なぜならば、5割近くの履修学生が韓国語のComputer実習に対して積極的な姿勢を示しているからである。また、どちらともいえない学生はそれぞれ30%前後を占めており、それらの学生に対

## 日本における国際情報教育の展開

して教師が効果的な指導を加えるならば、予期しない大きな学習意欲が湧き出るものと考えられる。ここにComputer利

用による韓国語学習の素地は確かに存在しており、教師の指導力に期待されるところが大きいものと考えられよう。

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
ぜひ実習したい		0	0.0%	2	8.0%	2	6.7%
機会があれば実習したい		1	20.0%	11	44.0%	12	40.0%
どちらともいえない		2	40.0%	9	36.0%	11	36.6%
実習したくない		2	40.0%	3	12.0%	5	16.7%
その他		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-12>韓国製Computer利用による韓国語学習

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
ぜひ実習したい		0	0.0%	3	12.0%	3	10.0%
機会があれば実習したい		1	20.0%	11	44.0%	12	40.0%
どちらともいえない		2	40.0%	7	28.0%	9	30.0%
実習したくない		2	40.0%	4	16.0%	6	20.0%
その他		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		5	100.0%	25	100.0%	30	100.0%

<表-13>日本製Computer利用による韓国語学習

また同様に、「韓国語e-mail実践」と称して、情報通信の可能な科目を設定し実際に韓日高等学校間において韓国語によるe-mail実践を行うことができれば、韓国語学習も情報技術の利用により一層意義深い学習内容として構築されるであろう。実際の調査Dataによると、

すでに情報交換を行っている学生もいることから教育機構への早期組み入れの必要性を痛感するところである。語学学習にSystem化を導入しながら情報化に国際化を付加し、その教育的効果の向上に期待するところである。

回答項目	性別	男子	男子%	女子	女子%	合計	合計%
している		0	0.0%	4	15.4%	4	12.9%
していない		5	100.0%	18	69.2%	23	74.2%
機会があればしてみたい		0	0.0%	4	15.4%	4	12.9%
合計		5	100.0%	26	100.0%	31	100.0%

<表- 1 4 > e-mail利用状況

以上のことから、これからの教育課程には、外国語学習をより一層定着させる必要性を職業情報教育の目標としながら、当該諸国製品によるComputerおよびSoftwareを利用した語学情報教育が必須であるという見解がここに導かれたのである。そこでたとえば、韓国では日本語Systemを利用した「日本語情報」、日本では韓国語Systemを利用した「韓国語情報」の新設が急務とされよう。その他の科目として「韓国語e-mail実践」および「日本語e-mail実践」「英語e-mail実践」なども必要であるとの見解を導く

ものである。

#### (8) 韓国語学習の必要性

最後に、韓国語学習に関するその必要性について自由記述していただいたDataからの分析をする。仮説1でも掲げたように、本調査を実施させていただいた学生諸君は韓国語に対する興味関心が旺盛であり、積極性ある態度に感心している。では、調査集団30名から得た意見は以下のとおりであった。

## 日本における国際情報教育の展開

自由記述による意見	(件数)	百分率
(ア) 海外への渡航する機会増大	(1件)	6.3
(イ) 地理的に近い条件から英語同様、学習の機会が必要	(3件)	18.7
(ウ) 国際科学生は外国語が得意という偏見	(2件)	12.4
(エ) 諸外国との交流機会の増大	(1件)	6.3
(オ) 報道機関の韓国での取材から学習の機会が必要	(1件)	6.3
(カ) 韓国語の良さを知らせるためにも学習の機会は必要	(1件)	6.3
(キ) あらゆる学科で韓国語学習の機会が必要	(1件)	6.3
(ク) 韓日交流の活性化傾向から韓国語学習の機会が必要	(2件)	12.4
(ケ) 韓日関係問題から韓国語を通して国情を学ぶ必要がある	(1件)	6.3
(コ) 韓国語関係業務に従事希望から韓国語学習の機会が必要	(1件)	6.3
(サ) 会話力の低下から韓国語学習の機会増大	(2件)	12.4
合 計	16件	100.0

<表-15> 韓国語学習の必要性 (自由記述)

このような自由記述による意見において特筆すべきことに、地理的条件からの必要性を述べており、韓国語の必要性について英語と同様の水準を求めていることがわかった。また、韓国と日本との国際交流機会が今以上に増えてくると予測しており、そこに学習機械を求めている。さらに国際科という学科にとらわれることなく、多くの学生の学習機械を与えるべきと述べている点も特記すべきことである。以上、ここに語学情報を含めた新しい情報教育に向かう要素が本調査Dataより検出されたのである。

## 第4章 結論

### 第1節 研究結果および示唆点

#### 1.1 研究結果

本研究は、日本の商業系高等学校における情報教育および韓国語教育について情報教育の一般理論から発展的な考察を含めて述べ、さらに学生からの質問紙調査により韓国語教育の情報教育への導入という模索検討を試みたものである。高度産業社会が日々進展する中で商業系高等学校は常に変化対応しなければならな

い責務を負っている。当然ながら、情報教育も新展開の必要性に迫られている。そこで本研究結果として、以下に掲げる

教育施策を求めるものである。

- (ア) 情報機器の新規更新の浸透と完全実施
- (イ) 最新の情報分析Systemへの対応
- (ウ) 教員の教育への意欲維持と学生への興味関心に対する影響

以上の3点は、新しい情報教育を実施するにあたっての具体的な教育施策として掲げた。少なくともこうした諸点が基本となって高等学校の情報教育が新産業に対応しなければならないものとする。

はあらゆる領域においても高等学校学生の資質としてCommunication能力が求められるとの仮説の下に新たな調査を実施し、今後の情報教育にCommunication能力が必須との要素を導こうとするものである。その一つに日本における韓国語学習を情報化の一つとして捉えながら、新学習指導要領商業編（日本）における「英語実務」の科目と同様の位置づけを情報教育を通じて行おうとする試みでもある。

## 1.2 示唆点

### (1) コミュニケーション能力の必要性

最近、高等学校の教育課程の検討をする中で、または新しい教育体制の模索検討を試みる中で盛んにCommunicationの活性化問題が浮上してくるのである。現代の激変する情報化の渦中であって、高等学校の学生が国際化の波を受けながら、国内における外国人とのCommunicationをはじめ、自ら海外に出向いたときの効果的なCommunicationを図るために必要な資質とされて、今新たに提言されているのが、このCommunication能力である。

そうした中で、情報教育においてもComputer機器を介したCommunication技法が求められてくるのである。本研究で

## 第2節 要約と限界点および提言

### 2.1 要約

日本では、特色ある科目に「課題研究」がある。この科目の中で「外国事例研究」という内容を掲げ、Internetによる情報検索の実践を通じて情報収集に努めさせているという。そうした比較的斬新な科目において、さらに情報収集という段階から一歩進んだ形態として、収集した情報を的確に分析する力（情報分析）

## 日本における国際情報教育の展開

の養成と共に、情報表現方法を駆使しながら新しいPresentation能力（情報Presentation）の養成に努めている。この中で最大の問題点となることに情報表現の最も基本的な文字情報の理解のための教育が必須となる。VisualなLevelでの理解度は語学教育なくして可能であるが、文字情報（Character Information）の理解深化が情報教育にとって必要なことと言える。

ここに語学教育が情報教育の前提条件となり、加えて必要条件となるのである

。今後より一層、語学教育と情報教育が融合した形態を採りながら教育領域が次第に拡大してゆくものと考えられる。こうして本研究の最終的意図が検出されたのである。つまり外国語情報教育の活性化からの「国際情報」という新科目の設定をこれまでの実証的Dataを基にしながらその根拠を求めようとするものである。それでは「国際情報」と外国語情報教育との関係について以下の表に掲げることとする。

区分	科目名	指導内容	学年
国際情報科目	国際情報Ⅰ 国際情報Ⅱ 国際情報Ⅲ	英語・韓国語のComputer利用による文書作成 英語・韓国語のComputer利用による表作成 英語・韓国語のComputer利用による情報検索 なお、Dataは商業情報とその前提条件となる。	1年 2年 3年
基礎科目	外国語 外国語Communication	英語・韓国語の基礎的語学力の養成 英語・韓国語の会話型語学力の充実 なお、語学学習の内容については商業情報を主とする。	1・2年 2・3年

<表-16> 国際情報関係科目群の基本模型

このように国際関係科目群の一つとして、国際情報関係科目群を位置づけるといふ必要性をここに述べるものである。

### 2.2 限界点

本研究の限界点には以下の諸点にあるも

のと考えられる。

第一に、情報教育を根底から再構築しようとするときに、新規理念の斬新性が拡大すればするほど、教師の適応能力に限界が生じてくる。これを解消させるためには教師研修が求められ、教師の基本的資質である情熱・意欲などが問われてくることになる。やはり学生の抱く無限の

興味関心をいかに教師が引き出そうとするか、ここに教育技術が問われることになる。

第二に、情報化と国際化が本研究の主題でもあることから鑑みて、国際情報教育に対応するために、国際理解・国際協力などの経済的人間として基本的に備わっているべき要素の確認をその導入とする必要がある。その上で国際的企業間関係を前提とした経営情報教育が施されてゆくのである。そこでの限界点とは語学力の不足にある。

韓国の場合、高等学校の教育課程に「日本語」が位置付けられており、多くの時間が設定されている。当然ながら充実した日本語教育が実施されている。これに対して日本における韓国語教育の実態と言え、ある特定の高等学校の特定学科に限定した形態でしか導入されていないという現実がある。日本における韓国語教育の充実にはかなりの時間を要するものと考えられる。しかし、今後韓国語教育の充実を期待して、さらには国際情報化への対応の一環として、次第に拡充の方向に向かう必要がある。こうした日本における韓国語教育の現状がその限界点であると言えよう。

### 2.3 提言

最後に、本研究の提言として以下に掲げることで、それを今後の課題としながら、韓国および日本両国の情報教育がますます活性化することを願っているのである。

(ア) 教育課程の改訂に際して新時代を透視した先見性が求められる。

(イ) 現代の商業情報教育には経営活動全般に対応した教育が必要である。

(ウ) 経営情報教育の国際化進展を支援する能力は語学力が基本となる。

(エ) 高度産業人の育成に期待を寄せ、調整管理能力が問われてくる。

(オ) 情報技術の理解と情報活用、そして組織と構成が重要である。

### 注記および参考文献

- 遠山 啓, "競争の原理を超えて", 1980, p.12  
A.S. Neill, 霜田 静志, "恐るべき学校", 1967, p.13-14  
西谷成昭, "総合的情報教育の展開", 瑞進出版社, 1999.8 p.7-p.8  
御手洗昭治, "英語の勉強法", 中経出版, p.49-p.66  
S h a w E . P e n d e r , "アメリカマルチメディア教育事情", 実教出版, p.40-p.41

本調査は、岩手県立花巻南高等学校 校長佐々木 顕先生 (現在 富士大学教授) のご協力ご快諾を得て、韓国語履修学生を対象に調査をさせていただいた。本調査実施に当たり、韓国語担当者である阿部宣姫先生には多大なるご協力とご支援を頂戴した。ここに深く感謝申し上げる次第である。

また、実際に韓国語の授業も拝見させて頂き、韓国語の楽しい学習の雰囲気も伝わり、かつ学生自身も伸び伸びと韓国語学習に取り組んでおり、こうした状況が商業教育の前段に準備されていれば、望まれる国際情報関係学科および国際経営関係学科等々の編成に有効な作用が働くと感じた。ここに花巻南高等学校のますますのご発展をご祈念して御礼にさせて頂く。

## ABSTRACT

### A Development of International Information Education in Japan

- Focus on a Korean Language Education in the Information Education -

Lee, Jong-Ho\* · Nariaki Nishiya\*\*

It is changing our society in Japan, and it is needs a new style of education. And then, it is needs a framework of a study. So, it is changing a high school education, especially information education in the business education.

And then, the aim of this study paper, it is needs a good at business education, so, it is showing the following.

- 1 A thinking of a basic condition in the development of information education.
- 2 A thinking of needs in the Korean Language of Japan, and the stand position is a world wide information education.

So, it is needs about a capacity of international sensitivity in the information education. It was passed a several years about a "Capacity of Communication in the Information education. And then, it is a next new style of word in the 21st Century, the word is a "International Sensitivity". It is showing the following.

- 1 Humor
- 2 Body Language (B L)
- 3 Keep a distance of other
- 4 International Sensitivity
- 5 How to improve of International Sensitivity
- 6 Magic Words

There is needs a new stand position about the international sensitivity, I am thinking a needs of study Korea language in the information education in Japan. I was tried to take an answer sheets in the Iwate Prefectural Hanamaki Minami High school, and I had a new answer from the high school students.

It is showing the following about a answer sheets.

- 1 A study of credit reason in the Korean and degree of this satisfied it
- 2 A degree of understand and difficult - easy

---

\* Kongju National University Department of Computer Education

\*\* Iwate Prefectural Miyako Kita High School

3 A relation of treat to lesson and to interesting degree of English

4 A lesson of Korean document editor by the computer and e-mail

I had a research and analysis by the answer sheets, it was showing the following.

1 There is a interesting in the students, and I have study hard about Korean language for Asia Countries. The students are satisfied it.

1 The students are not understand in Korean, I think that it is difficult to teach it.

1 The lesson is a fun and treat it with to study in English, too.

1 They had interesting to make a document by the computer, and they are not experience by e-mail. So, it is expect that the teacher has to teach for a good lessons.

And I have some another opinion the following.

1 It is needs for study chance in the same area.

2 It is needs for study chance in the exchanging Korea and Japan, recently.

3 It is needs of study chance for conversation in Korean language.

This is a some opinion from high school students, and I have a new age in the Commercial high school the course of International Information. We are International generation and I think that it is needs to teach Korean to Business Course of high school students.

Finally, I hope that it is developing about a new style of education in the business education of Information course.

1 The subject of application information in the international

(1) International Information I

This subject is a document processing about English and Korean to use a computer.

(2) International Information II

This subject is a spread sheets for calculation about English and Korean.

(3) International Information III

This subject is a information searching to use a computer by English and Korean.

1 Basic subjects

(1) Foreign Language

It is to study a capacity of basic language in the English and Korean.

(2) Foreign Language Communication

It is to study a discussion in the English and Korean.

**Keywords :** *International Information Education, Business Education, Information Education, Information Communication Capability, International Sensitivity*